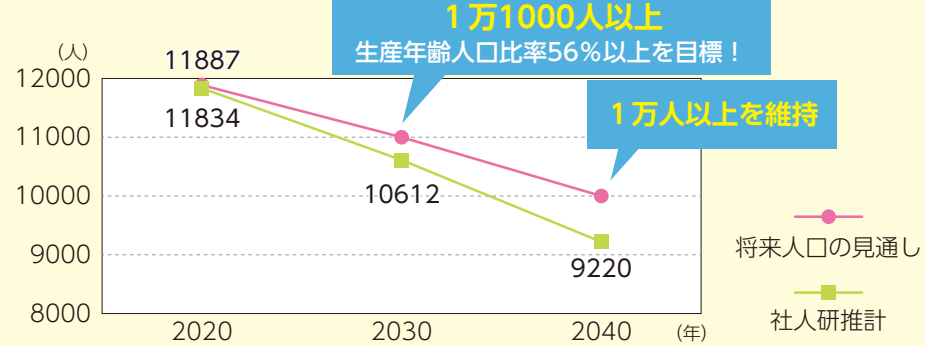


## 将来目標人口

少子高齢化に伴う人口減少が加速する中においても、10年後のあるべき姿を実現するための基盤となる将来人口について、2040年以降も1万人以上を維持することを長期的な目標として見据え、目標年次である2030年では、1万1000人以上(生産年齢人口比率56%以上)を目標として設定しました。

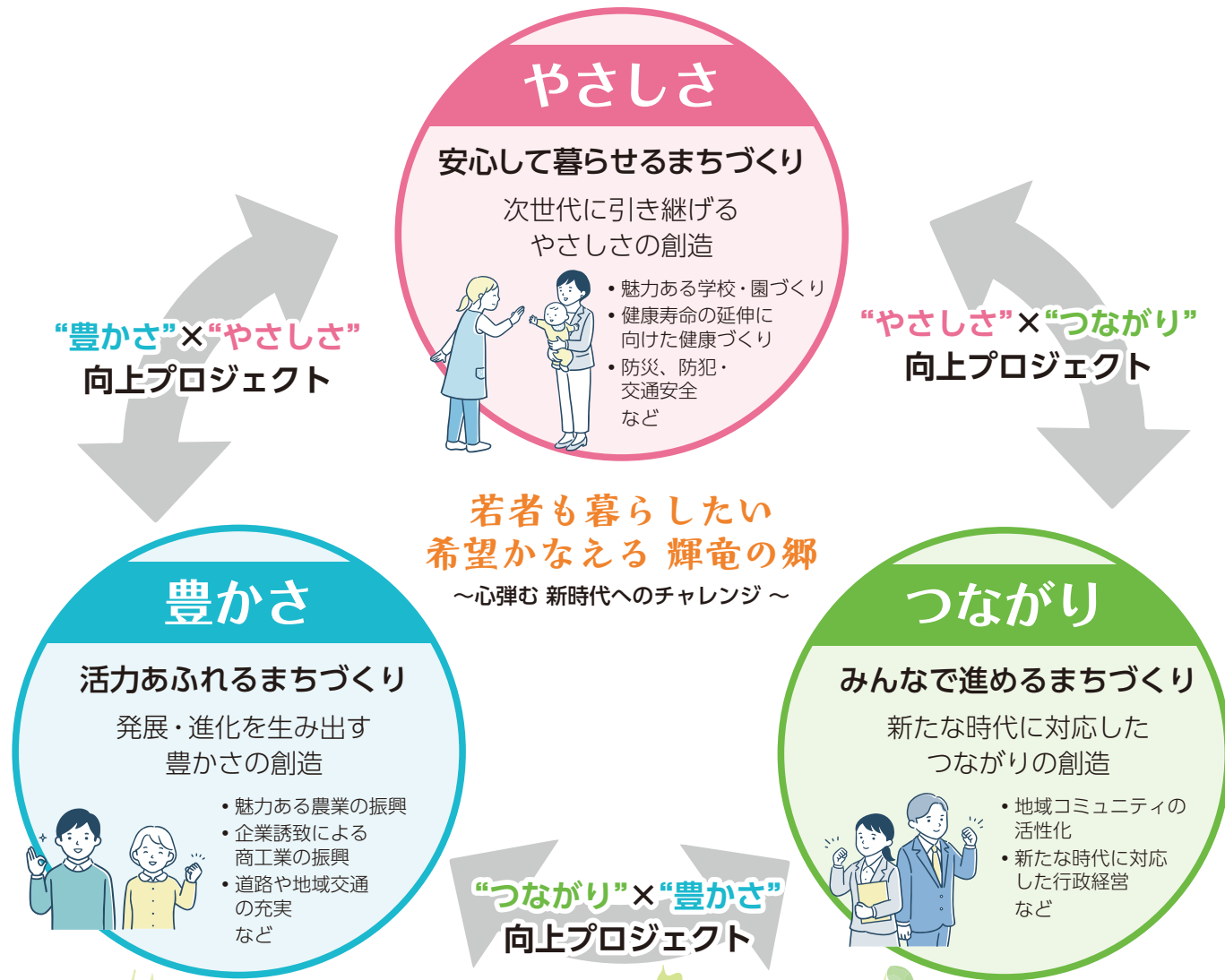


※社人研推計は、国立社会保障・人口問題研究所による推計

※将来人口の見通しは、各種取組により、転入・転出による社会動態、出生などによる自然動態の改善を図った人口見通し

※2020年人口(1万1887人)は、令和2年9月末住民基本台帳人口

## 基本計画 まちづくりを進める「3つの分野」



## 新時代へのチャレンジ

# 輝竜の郷づくり懇談会を開催しました

竜王町では、令和3年3月に第六次竜王町総合計画を策定し、新たなまちづくりをスタートしました。また、総合計画の実現に向けては、竜王町コンパクトシティ化構想を最重要施策と位置付け、まちづくりを進めています。これからのまちづくりの方向性をお示しし、10年後のあるべき姿の実現に向けた取り組みを町民の皆さんと共有する機会として、2月16日~22日にかけて町内3会場で計5回の「輝竜の郷づくり懇談会」を開催し、124名の方にご参加いただきました。今月号では、懇談会の概要や頂いたご意見などをお知らせします。

## 「第六次竜王町総合計画(令和3年度~令和12年度)」

### 10年後のあるべき姿

わか もの く き ぼう き りゅう さと  
**若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷**  
~心弾む 新時代へのチャレンジ~

若者をはじめ、竜王町に関わる全ての人(子ども、若者、子育て・働き世代、高齢者など)が、暮らしを通して地域に愛着を持ち、住み続けたいと思えるまちをめざします。

また、それぞれの幸せ(希望)を思い描き、それを人にかなえてもらうのではなく、自身の努力やお互いの支え合い、まち全体のしくみづくりにより実現でき、豊かな自然に囲まれた理想的な環境の中で誰もがきらりと輝くことができるまちをめざし、豊かで利便性の高いまちづくりにチャレンジします。

10年後のあるべき姿の実現に向けては4つの考え方を基本理念として、「豊かさ」・「やすしさ」・「つながり」の3つの分野により、まちづくりを進めます。

## 基本理念 まちづくりを進めるうえで大切にしたい「4つの考え方」

### 《次世代に誇れるまちづくり》





## 竜王小学校の移転新築

築50年を経過した竜王小学校は、これまでの検討経過を基に移転新築により整備を進めますが、コミュニティ・スクールとしての取り組みや避難場所としての位置付けなどから、竜王町教育行政基本方針の合言葉である『キラリと光る教育で竜王の人づくり・まちづくり』を踏まえ、竜王らしくキラリと輝く『地域とともにある学校』づくりをコンセプトとしています。

### 移転新築による効果

- ・校舎や体育館、プール、グラウンドなどの一体整備により教育環境が向上
- ・工事期間中の学校教育への影響がなく、仮設校舎が不要
- ・スクールバスや送迎時に交通量の多い道路の横断がなくなり、安全の確保につながる
- ・教育施設が近接することで施設間連携が深まる
- ・周辺施設とあわせ、学校行事時の駐車スペースを確保することができる

#### 現在の竜王小学校の状況



教室



廊下



手洗い場



ビオトープ

## 交流・文教ゾーンの整備

竜王小学校、こども園、給食センター、学童保育所、コミュニティセンター、公園をゾーンとして、一体的に整備することで

- ① 他のゾーンとの相乗効果により町全体の暮らしやすさが向上します
- ② 防災機能を整備することにより、町全体の防災力が向上します
- ③ ゾーン内の車両通行を制限することにより子どもの安全を確保します
- ④ 公民館や図書館、役場が近接することから施設間の連携が深化します
- ⑤ 小学校、こども園跡地への住宅整備により若者定住を促進します

「交流・文教ゾーン」の整備には、国・県の補助や起債を活用し、総額は約55億円を見込んでいます。



安全性が高まるのはうれしいね！

### 中心核の整備イメージ



暮らしに必要な施設が集まっていて便利！



もっと暮らしやすい町へ！

## 竜王町コンパクトシティ化構想

竜王町コンパクトシティ化構想は、町の中心部だけを活性化するものではなく、役場周辺に教育や交流の拠点を集約し、生活利便施設や新たな住宅地を整備することで町の「中心核」を形成するとともに、集落や団地を生活拠点として「コミュニティの維持・活性化」をめざすものです。あわせて、**中心核と各地域を公共交通や道路、情報の「ネットワーク」で結ぶことにより、「町全体のバランスの取れた発展」と「町内外から魅力を感じてもらえるまち」を創っていくという考え方が竜王町のコンパクトシティ化構想です。**

### 【中心核】

- ▶ 教育施設等の集約
- ▶ 交流空間の整備
- ▶ 民間施設の誘導
- ▶ 居住基盤の整備

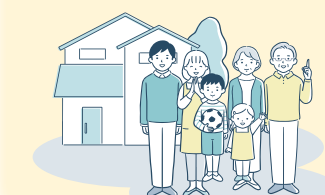


### ネットワーク

- ▶ 公共交通網の整備
- ▶ 道路網の整備
- ▶ 情報ネットワークの整備

### 【集落・団地】

- ▶ 自治会機能の維持
- ▶ 若者世代の定住
- ▶ 高齢世帯の安心
- ▶ 同居や近居



中心部だけを活性化するものではなく、

町全体のバランスの取れた発展！  
魅力あるまちづくり！

### 中心核の整備

教育・交流施設を集約した「交流・文教ゾーン」、竜王小学校・こども園跡地を活用し、戦略的に新たな住宅地を整備する「居住ゾーン」、生活利便施設の立地を誘導する「複合ゾーン」と既存の商業施設や役場をはじめとする「商業ゾーン」と「行政ゾーン」の5つのゾーンを順次整備することによって、町の中心部ににぎわいと生活の利便性を高めるとともに、脱炭素社会やデジタル化社会の実現にも貢献する中心核を形成します。

時代に即した、  
魅力的なまちの創造

### 輝竜の郷づくり懇談会の様子



竜王町公民館



農村環境改善センター



こんな町なら暮らしやすいね！



## 懇談会での主な意見

Q 住みたいけど「住めない、魅力がない、利便性が悪い」この理由が大多数と思う。「竜王ええなあ」とうらやましがられるまちづくりをお願いしたい。

A 若者をはじめ、竜王町に関わる全ての人が住みたい、住み続けたいと思え、町内外から魅力的な町と言われるよう、10年後のあるべき姿の実現に向け、しっかりとまちづくりを進めます。

Q 中心核の整備を進めるにあたって、町の財政は大丈夫か。

A 行政経営にあたり財政の見通しは重要であり、中心核整備などのハード事業とあわせ、教育や福祉施策などのソフト事業も含めて、今後の収入の見込みや町の財政規模から、将来にわたって安定的な財政運営は可能であると考えています。また、中心核(交流・文教ゾーン)の整備は、国等の補助金や基金(積立金)、起債(借入金)により必要な費用を賄います。起債は、おおよそ35億円程度の借り入れを見込んでおり、これにかかる毎年の償還額は1億6千万円程度となりますが、町の財政規模からは通常の範囲内です。なお、居住ゾーンや複合ゾーンについては、土地利用条件などを整え、民間事業者による整備を積極的に誘導します。

Q 竜王小学校の移転新築予定地はハザードマップで浸水想定がされていますが対策は講じるのか。

A 竜王小学校は災害時には避難所となる施設であり、河川の氾濫だけでなく、内水による浸水を想定した滋賀県地先の安全度マップによる最大浸水を想定し、盛土による造成や惣四郎川との間に管理用通路を設けるなどの対策を講じます。

懇談会の資料や、ご意見に対する町の考え方については、町ホームページをご覧ください



Q 竜王町コンパクトシティ化構想は、町の中心部だけが良くなるのではなく周辺集落も含め、町全体が良くなることをめざしていることが分かった。ネーミングがどうしても中心核構想と捉えられてしまうのではないか。

A 竜王町コンパクトシティ化構想が町全体の発展を掲げた構想であることを町民の皆さまにご理解いただけるよう、引き続き工夫をしながら情報発信に努めます。

Q 現在の竜王小学校が建設された当時、次代を担う子どもたちを大切にするとのお考えがあった。しかし現状の竜王小学校は古く、旧式の学校である実態を町民にも知ってもらう必要がある。

A 次代を担う子どもたちを大切にしたいという思いは、今も昔も変わりません。竜王町の子どもたちが恵まれた環境の中で学べるよう、これからのニーズに対応する竜王小学校に建て替え、地域と共にある学校を町民の皆さまと共に作り上げていきます。

Q 竜王小学校の開校と学童保育所の開所時期に2年の差がある。少し無理をしても同時に移転することで利便性が高まるとともに小学校跡地の整備が早く進められる。他の施設も個々に考えるのではなく一貫性を持って整備を進めてほしい。

A 「交流・文教ゾーン」の整備については、随時、最善の方法や最適な時期を考えていますが、いただいたご意見を踏まえ、小学校の開校と学童保育所の開所が同時期となるよう全体スケジュールを調整するとともに、他の施設についても施設間の連携を考慮し、一貫性を持って進めます。

## 懇談会を終えて

輝竜の郷づくり懇談会については、事前申込み制や会場の選定、開催時間の短縮など新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮し開催いたしました。多くの方にご参加をいただき、貴重なご意見やご提案を賜り誠にありがとうございました。

この懇談会では、第六次竜王町総合計画や竜王町コンパクトシティ化構想、竜王小学校の移転新築について、説明させていただきました。

いただいたご意見(会場・意見シート)には、事業を進めるにあたって留意すべき事項や、計画に基づき前向きにできるだけ早く、しっかりとまちづくりを進めるべきとの、さまざまなご意見をいただきましたが、おおむね事業の内容についてはご理解を得たものと考えております。いただいたご提案は、今後、事業を進める中でできる限り反映させていただきます。

まちの魅力をさらに高め、人口減少の課題を克服し、将来にわたって竜王町が持続していくためには、行政はもとより、町民の皆さまや地域、企業など町に関わる全ての人の思いが丸となってまちづくりを進めなければ、その実現は難しいと考えます。

懇談会を終えて、人口減少・少子高齢化が進む中、若者をはじめ竜王町に関わる全ての人の希望がかなう輝竜の郷を実現するためには、企業誘致により新たな雇用と税収増などが期待できる「今」、竜王町コンパクトシティ化構想をはじめとした、新たなまちづくりの取り組みを「しっかりと進めなければ手遅れにならない」とあらためて確信しました。

「若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷」を皆さまと共に創ってまいりましょう。

竜王町長

西田秀治

